

問題点を明らかにして価値を追求することで、 道徳的価値と自己との関わりを見つめる学習

～2年『勇気をもって』＜希望と勇気，努力と強い意志＞の実践を通して～

安部 彰 浩

I はじめに

道徳が「特別の教科 道徳」となった背景には、度重なる深刻ないじめ問題や情報通信技術の発展による生活の変化，子供を取り巻く家庭や地域の変化や青少年の自己肯定感の低さなど，克服すべきたくさん課題があると指摘されている。

特別教科化のねらいは，道徳の授業を充実させることで，これらの課題を解決することである。そのために重視されたのが，年間授業時数 35 時間の量的確保と，深く主体的な価値理解を促す授業の質的変換である。

本校児童の実態を調査するために，過去 5 年間で蓄積された道徳性検査の結果分析や教職員へのアンケートを実施した。すると，道徳的価値の知識や理解の力は育っている反面，道徳的実践力が不十分であるという実態が浮かび上がってきた。これは，追求した道徳的価値が自分事として捉えられていないということであり，まさにこの一部改訂で指摘されたことである。

このような本校の課題を解決するために，本研究では，「道徳的価値と自己との関わりを見つめ，よりよい生き方についての考えを深める学習」を研究主題に据え，1年次は「問題状況に主体的に関わることを通して，道徳的価値への理解を深める学習」をテーマとして研究を進めてきた。「問題状況に主体的に関わる」とは，資料の主人公が置かれた立場，直面した状況は，どのようにして出来たのかということと考え，自分ならばどうするか（どう解決するか）という視点で考えるということである。授業においては，資料を読んだ児童が感じた，疑問や問題を明らかにすることから価値の追求を展開していくことにした。

本実践では，資料（内容項目 A－（5）希望と勇気，努力と強い意志）が提示する状況のどこに問題があるのか（問題場面のつかみ），問題の解決方法の構想の 2 点を重視した。特に，価値の方向付けに至るまでの手立てや，発問の作り方には，特別活動における研究成果等も生かし，型にとらわれない道徳授業の在り方や，話し合い場面の充実した道徳授業の姿を求めて実践を行った。

II 研究の目的と方法

本研究では，児童が問題状況に主体的に関わり，道徳的価値への理解を深めていくための効果的な手立てについて明らかにしていく。そのために，以下の 2 点を考察の視点として，授業中や授業後の児童の様子について分析する。

上記の実践の具体的な内容について以下の 2 点を中心に紹介する。

- 検討すべき問題を明らかにする資料分析の工夫
- 問題状況に主体的に関わる発問の工夫



ペアで意見交換をする児童の姿

Ⅲ 結果と考察

1 検討すべき問題を明らかにする資料分析の工夫

(1) 結果

本実践は、A－(5) 希望と勇気、努力と強い意志に関わるものである。


20
じしんはあつめるのじ

「きょう よむのは、きみ子さんからね。」
 こくこの じかん、先生が わたしの ほうを 見て おっしゃいました
 よみはじめると、きのう あれだけ れんしゅうしたのに、むねが ドキ
 キしました。むちゅうで よみおわった とき、はく手が おこりました。
 「とても じょうずに よめて いましたよ。」
 と、先生が ほめて くださいました。

つぎは、さんすうの じかんです。けいさんもんだいの こたえあわせの
 とき、みんなが いきおいよく 手を あげました。わたしは、
 (手を あげよう。)

と おもうのに、手が あげられません。
 あげようか どうしようかと まよって いる うちに、ひろしくんが
 たえました。おなじ こたえでした。
 どうとう さいごの もんだいに なりました。
 (こんどこそ、手を あげよう。)

と おもいました。これまでの こたえは、
 ぜんぶ あって いたし、じしんは あるのに、
 むねが ドキドキして います。でも、
 こくこの じかんの ことを おもい出し、
 おもいきって 手を あげました。
 「きみ子さん。」
 と、先生が あてました。
 わたしは、せいっぱい こたえました。
 「よく できました。」
 と、先生が ほめて くださいました。



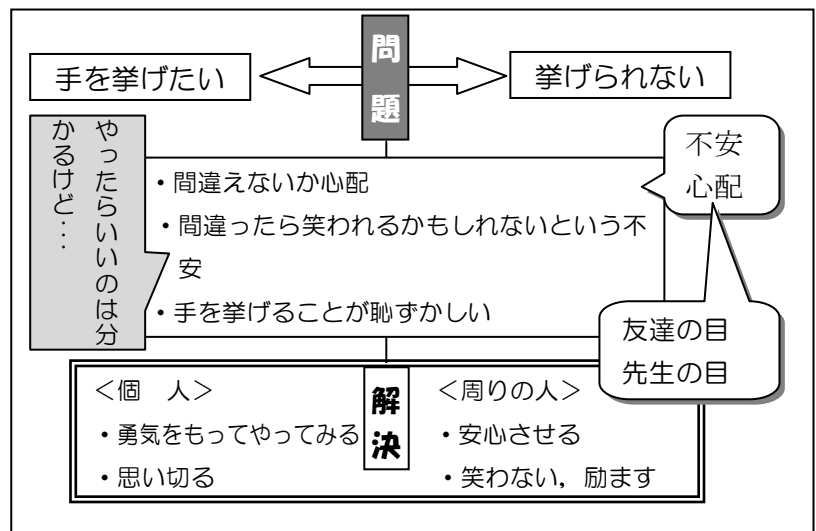
資料1 日本文教出版「どうとく2 あすをみつめて」より

資料分析では、事前調査の結果や他教科・領域の授業における児童の様子を参考にした。資料を読んだときの児童の反応や、授業で明らかにすべき問題、そしてその解決方法を児童がどのように考えるのかということについて考えた。その概略が下図である。

資料に含まれる問題を「手を挙げたいのに挙げられないという葛藤」と押さえ、その要因として、「個人」と「周囲」にある問題を想定した。個人の問題とは、一步を踏み出せない消極性であり、周囲の問題とは、失敗や誤りが許容されない雰囲気である。

特に大きな問題は、「やった方がいいのは分かっているのにできない」ということであるが、これは他の多くの道徳的価値にも当てはまる問題と言える。

本実践の場合は、「思い切って挙手をすることが大切だと分かっているが、それができない。」ということになる。2年生という発達段階を考慮すると、「できない自分の弱さ」に焦点を置くことは、自己肯定感の涵養に思わしくない影響を与えるかもしれないと考えて授業を構想した。



なお、授業では左頁6行目「ドキドキして います。」までを資料として提示した。これは、「褒められたいから挙手をする」「褒められるために挙手をする」というような考えに偏ることがないようにするためであった。

(2) 考察

授業の構想段階では、問題の対立点（「挙げたい」対「挙げられない」）を明確にすることで、授業の余分な部分をそぎ落としていくことが容易になったと感じた。「価値の方向付け」の段階から、「価値の追求・把握」の段階までの流れは、スムーズに展開することができた。常に、「分かっているのに何故できないのか。」という葛藤を感じつつ、児童それぞれが価値についての考えを深めていた。

詳細は次項に譲るが、このような授業展開は、発問構成と関わりがある。この発問構成に直結したのが、問題を明らかにしていく資料分析であると考えられることができる。

2 問題状況に主体的に関わる発問の工夫

(1) 結果

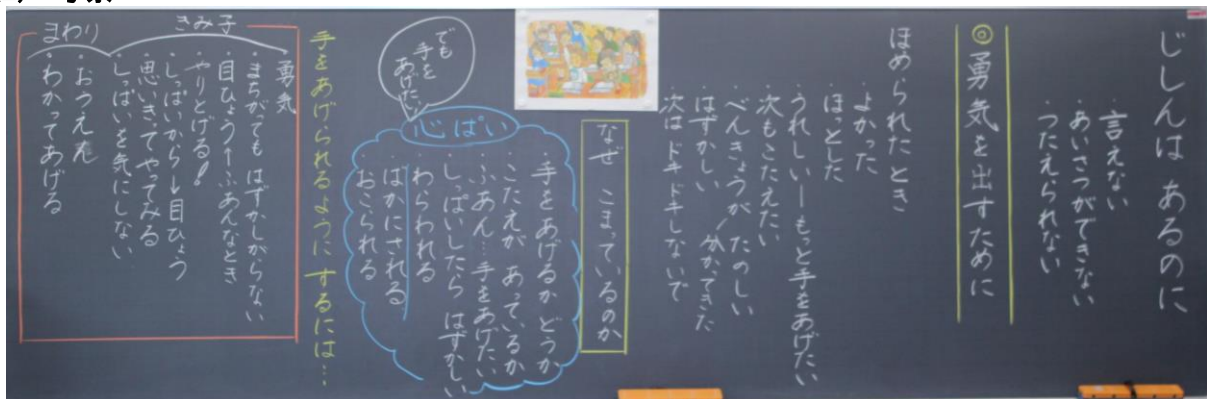
本実践での発問構成を以下に示す。

<発問構成>

- 「じしんは あるのに」に続くのはどんな言葉でしょう。
- 先生に褒められたとき、きみ子さんはどんな気持ちだったでしょう。
- 算数の時間、きみ子さんはどうして困ってしまったのでしょうか。
- ◎手を挙げられるようにするには、どうしたらよいでしょう。自分だったらどうするか、解決方法を考えましょう。
- これから皆さんは、どのように生活していきますか。

◎で示したのが、本時の中心発問である。問題状況に主体的に関わるために、「自分なら」という視点で発問をつくった。低学年であるため、様々な立場での解決法を考えるような授業は、価値の追求・把握を難しくしてしまう。低学年には、「自分なら」という視点で考えさせることで主体的に関わることを促し、その後に意見を交流させることで、考えを深めていくことができると考えた。

(2) 考察



資料2 本時の板書

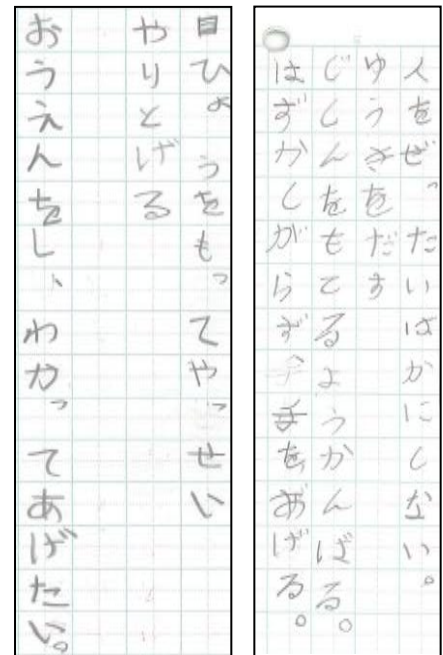
児童が問題を明らかにしていくのは、授業開始後、12～13分である。板書「なぜこまっているのか」の位置がそれに当たる。無駄な発問を減らしたため、展開を早くすることができた。

児童の発言から、「不安」や「心配」が、思い切って挙手をするという行動を阻んでいると考え

ることができる。その「不安」や「心配」について、より主体的に考えることができるようにするために◎の発問を用意した。

授業では、個人の考えをノートに書いてグループで交流した。その後、全体で意見を出し合って、解決方法について考えた。「不安」や「心配」の個人差が、その後の解決方法までの話合いに影響していたため、個人としての解決法と周囲の一人としての解決法を考える児童に分かれることになったと考えられる。

資料3は、「価値の主体的な自覚」の場面での児童の記述である。ここに見られるように、自分から思い切って行動することを重視するようになった児童や友達への気遣いに意識が向くようになった児童など、感じ方や考え方の違いと変化が見られる。ここから、解決すべき問題を明らかにしたことで、児童が道徳的な価値について主体的に関わり、考えたと見ることができる。また、一つの方法にまとまることなく解決法が提案されたということからも、それぞれの児童が主体的に授業に参画し、自分の意見、考えをもったと考えることができる。



資料3 児童のノート

IV まとめ

本研究では、道徳的価値と自己との関わりを見つめ、よりよい生き方についての考えを深める学習を目指して、講じた手立ての有効性について検証してきた。以下に成果と課題を示す。

1 成果

- 資料に含まれる問題を明らかにし、その道徳的価値について児童の視点を推察しながら考えていくように資料分析を進めた結果、シンプルに授業を構想することができた。
- 問題やその道徳的価値について、その時点での児童の考えを事前に調査することにより、価値の追求・把握を深め、より主体的に価値を自覚させることができた。
- 「自分なら」という視点で中心発問をつくることで、児童の主体的な学びを促すことができた。

2 課題

- 年単位での児童の見取り（評価）を行うならば、低学年ではワークシートを蓄積させる方が、変容を見取りやすくなるだろう。発達の段階を意識したワークシートを作成し、改良していくことが必要である。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 文部科学省 平成27年7月
- 初等教育資料 No. 940 「『特別の教科 道徳』の実施に向けた道徳教育の推進」
文部科学省 東洋館出版社 平成28年5月
- 小学校 新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編 永田繁雄 編著 明治図書
平成28年2月
- 問題解決型の道徳授業～プラグマティック・アプローチ～ 柳沼良太 明治図書 平成18年3月
- 道徳授業で大切なこと 赤堀博行 東洋館出版社 平成25年10月
- 道徳授業のユニバーサルデザイン 坂本哲彦 東洋館出版社 平成26年7月
- 問題解決的な学習で創る道徳授業 超入門 柳沼良太 明治図書 平成28年2月
- これからの道徳教育と「道徳科」の展望 赤堀博行 監修 東洋館出版社 平成28年11月